

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和8年度技術情報第3号(チャ炭疽病、チャノホソガ)について (送付)

チャの新芽病害虫(チャ炭疽病、チャノホソガ)について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ(<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosh/index.html>)にも掲載しています。

令和8年度 技術情報第3号

チャ炭疽病(以下、炭疽病)が発生しやすい気象条件が続いている。また、チャノホソガのフェロモントラップへの誘殺数も多く、4月中旬の一番茶における巻葉被害の発生ほ場率も平年より高くなっている。両病害虫とも、二番茶の新芽生育期における防除適期を失ないように注意する。

1 対象病害虫 炭疽病、チャノホソガ

2 対象作物 チャ

3 発生状況等および防除上注意すべき事項

(1) 炭疽病

1) 発生状況

- ア 一番茶の伝染源となる10月の秋整枝後残葉における発生ほ場率は51%(平年57%)で平年並みであったが、1㎡当たり病葉数は13.1枚(平年5.9枚)と平年より多かった。
- イ 4月中旬の巡回調査において、発生ほ場率は23.0%(前年0%)、1㎡当たり病葉数は2.4枚(前年0枚)と一番茶での発病が認められている。
- ウ 3月下旬から4月中旬の日平均気温は平年より高く、降雨日数も平年より多かったことから、今後、一番茶残葉での発病が増加すると予想される(表1)。

2) 防除上注意すべき事項

- ア 「やぶきた」や「おくみどり」等の本病に弱い品種では、一番茶摘採残葉での発生を確認した場合は、二番茶の萌芽～1葉期に防除する。
- イ 二番茶期は、萌芽から摘採までの期間が短いので、薬剤の使用時期(摘採前日数)に十分注意する。また、多発の続く茶園では、二番茶後に整・剪枝(深刈り等)により伝染源を除去する。

(2) チャノホソガ

1) 発生状況

- ア 4月中旬の巡回調査での発生ほ場率は33%(平年10%)と平年より高く、1㎡当たり巻葉数も1.5枚(平年0.4枚)と平年より多かった。
- イ 南さつま市金峰町のフェロモントラップにおける3月1半旬から4月4半旬までの成虫の誘殺数(主に越冬世代)は、1,954頭(平年658頭)と多かった(図1)。

ウ 気象庁の1か月予報では、4月下旬以降の気温は高いと予想されており、第一世代の成虫発生ピークは平年より早まると予想される。

2) 防除上注意すべき事項

ア 二番茶の萌芽～1葉期までに薬剤防除を行う。特に、成虫発生期と二番茶の新芽生育期が重なる茶園では被害が多くなるので適期に防除する。

イ 二番茶期は、萌芽から摘採までの期間が短いので、薬剤の使用時期（摘採前日数）など使用方法を遵守する。

ウ IGR剤及びジアミド系薬剤は、本虫に対する殺虫効果が低下している地域もあることから、地域の栽培暦に従って薬剤を選択する。

4 参考データ

表1 各地点の3月下旬～4月中旬の平均気温と降雨日数

地点	日平均気温 (°C)			降雨日数 (日)		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
鹿児島	17.8	15.6	2.2	24	18.5	5.5
枕崎	17.3	15.1	2.2	23	18.6	4.4
阿久根	16.4	14.2	2.2	23	16.9	6.1
種子島	18.4	16.9	1.5	19	19.1	0.1
平均	17.5	15.5	2	22.2	18.3	4

※気象庁アメダス、特別気象観測所データ、平年：1991～2020年の平均値

※降雨日数観測値が公表されている地点のみ

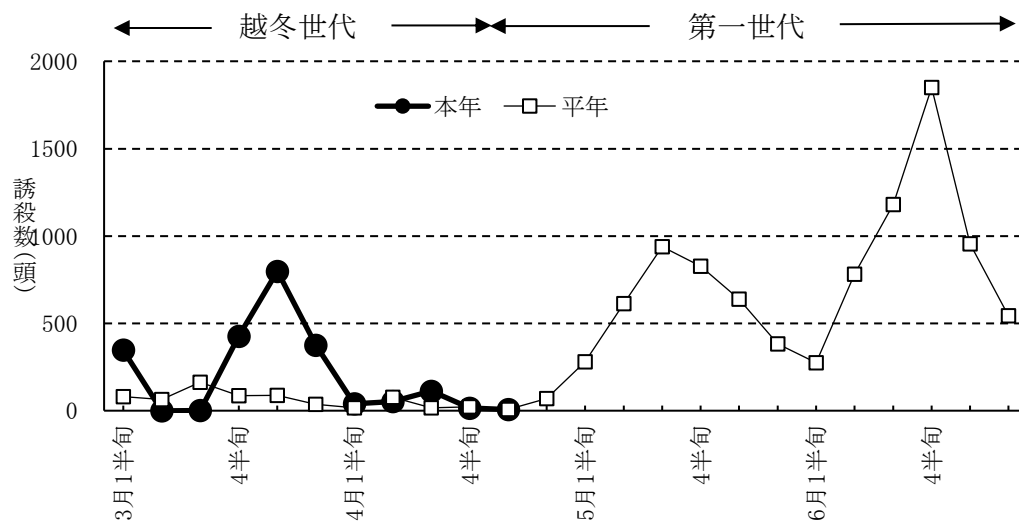


図1 チャノホソガ成虫のフェロモントラップ誘殺数（南さつま市金峰町）

※本年3月1半旬～4月4半旬の累積誘殺数は1954頭（平年658頭）